

ココが知りたい地球温暖化 気候変動適応⁺編

Vol.4

国立環境研究所 気候変動適応センター

Q4

SDGs?

持続可能な開発目標（SDGs）が達成できれば「適応」も十分できていると言えますか？

A 私が⁺ 答えます！ 

真砂 佳史

気候変動適応センター 気候変動適応戦略研究室
(現 気候変動適応センター 気候変動適応戦略研究室長)



SDGs は、現在の世代や将来の世代が持続可能な形で発展を続けていくために、2030 年までに達成すべき目標を示したものです。気候変動による影響に緩和・適応の両面に対応することも SDGs の目標 13 に掲げられています。しかし、気候変動による影響は 2030 年以降も続きますし、今後新たに発生する影響への適応も必要です。気候変動への適応は SDGs の期間内に完了するものではなく、より長期的な視野で進めていくべきものであることから、SDGs を達成しても適応が十分できているとはいえません。



1. SDGs（持続可能な開発目標）とは

2015 年 9 月 25-27 日に、ニューヨークの国連本部で国連持続可能な開発サミットが開催されました。そこでは、2015 年から 2030 年までに世界が目指す方針として「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（原文：“Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development”、以下「2030 アジェンダ」）」が採択されました。SDGs は、この 2030 アジェンダの中に示された、持続可能な発展を達成するための目標です。SDGs の D、“development” の和訳としてよく「開発」が使われますが、ここではもっと広い意味での人類の「発展」を意味しています。すなわち、SDGs とは、我々の世代だけではなく将来の世代の人間が持続可能な形で発展を遂げられるようにするために、2030 年までに達成すべ

き目標を示したものといたします。その内容についての説明は他の資料にゆずりますが、現在問題となっている貧困、不平等、性差別、健康、自然資源、生態系などの課題の解決に向けた道しるべを示しています。

2. SDGs と気候変動

気候変動への対策は SDGs の重要な項目の一つです。2030 アジェンダには「地球が現在及び将来の世代の需要を支えることができるように、持続可能な消費及び生産、天然資源の持続可能な管理並びに気候変動に関する緊急の行動をとることを含めて、地球を破壊から守ることを決意する。」と記載されています。これを受けて、SDGs の目標 13 に「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」とあり、その中に 5 つのターゲット（表 1）が設定されています。

SDGs 目標 13：気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

13.1	すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。	13.a	重要な緩和行動の実施とその実施における透明性確保に関する開発途上国のニーズに対応するため、2020 年までにあらゆる供給源から年間 1,000 億ドルを共同で動員するという、UNFCCC の先進締約国によるコミットメントを実施するとともに、可能な限り速やかに資本を投入して緑の気候基金を本格始動させる。
13.2	気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。	13.b	後開発途上国及び小島嶼開発途上国において、女性や青年、地方及び社会的に疎外されたコミュニティに焦点を当てることを含め、気候変動関連の効果的な計画策定と管理のための能力を向上するメカニズムを推進する。
13.3	気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。		

一方、目標 13 には「国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が、気候変動への世界的対応について交渉を行う基本的な国際的、政府間対話の場であると認識している。」という注釈がついています。すなわち、SDGs で気候変動への対策についての目標やターゲットを定めるものの、その達成に向けての議論は気候変動枠組条約の下で行うことになっています。SDGs 採択から 3 か月後の 2015 年 12 月に採択されたパリ協定では、この 5 つのターゲットをより具体的にした目標が記載されています。このような注釈は目標 13 以外にはついておらず、それだけ UNFCCC での気候変動についての議論が重視されていると言えます。また、SDGs の達成だけでは気候変動の対策は不十分であることを反映しているのかもしれない。



3. 誰一人取り残さない (No one left behind)

SDGs の大きな特徴として、「誰一人取り残さない (No one left behind)」という方針がよく取りあげられます。これは、SDGs の前に設定されていたミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals、以下「MDGs」) への反省が込められています。MDGs は主に発展途上国への開発支援を行う上で達成すべき目標であり、「飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる」「安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる」など、具体的な数値目標を持つターゲットがたくさんありました。これは個別施策の実施や進捗管理の上で便利でしたが、一方対策を取りやすい地域に施策が集中し、対応が難しい農村地域や後発開発途上国への援助が後回しになったという批判を受けました。SDGs は、「すべての人間が尊厳と平等の下に、そして健康な環境の下に、その持てる潜在能力を発揮することができることを確保する」ことを目指しており、個々の目標やターゲットに “for all (すべての人に)” という用語がたくさん使われています。上記の MDGs の 2 つのターゲットは SDGs にも引き継がれていますが、その対象は “for all” となっています。気候変動に関する目標 13 にもこの方針が明確に表れています。例えばターゲット 13.1 では「すべての国々において」災害に対する強靭性や適応能力の強化を図ることとされています。またターゲット 13.b では、気候変動による影響を最も受けるとされる後発開発途上国や小島嶼開発途上国での対策を重点的に進めるとしているのに加え、立場の弱い女性や子供、地方や社会的に疎外されたコミュニティに焦点を当てることが記されています。

4. SDGs と気候変動適応

さまざまな研究や国連の報告書などに示されているように、気候変動は地球や我々の生活の幅広い分野に影響を及ぼします。SDGs の目標 13 で「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」ことがうたわれていますが、それ以外にも食糧生産 (目標 2)、水資源 (目標 6)、エネルギー (目標 7)、生態系 (目標 14、15) などの目標を達成するには、気候変動による影響を考慮し、それに適応することが必要です。すなわち、気候変動に適応した社会を構築することは、SDGs を達成することに含まれるといえます。

では、SDGs を達成することで、気候変動に適応した社会の完成となるでしょうか？気候変動による影響を回避、軽減させることは SDGs の目標やターゲットに含まれているので、答えは「Yes」であるように読めます。しかし、SDGs は 2030 年までに達成すべき目標を示したもので、その内容は SDGs が採択された 2015 年の時点で認識されていた課題に限られます。一方、気候変動による影響は 2030 年以降も続きますし、今世紀後半になって新たな問題が生じることも十分考えられます。また、今後の適応に関する技術開発や社会の変革など、より長期的な視野で考えるべき課題は SDGs には含まれていません。SDGs のあと (2030 年以降) の国連の開発目標にもおそらく気候変動に関連した課題やその解決に向けた目標が設定されるでしょうし、国連気候変動枠組条約の下の議論も当然継続されます。したがって、気候変動への適応は、SDGs を超えた時間スケールで議論すべき課題であり、SDGs を達成するだけでは解決できないこととなります。この意味では答えは「No」となります。



注：2030 アジェンダや SDGs について、カギカッコ内で示した日本語訳は、外務省による仮訳 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>) から引用しています。

参考 さらにくわしく知りたい人のために

持続可能な開発目標 (SDGs) とは (国際連合広報センター)
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals Knowledge Platform, 英語)
<https://sustainabledevelopment.un.org/post2015/transformingourworld>

